

VOC自主的取組(状況報告)

○ 団体名

日本建材・住宅設備産業協会

○ 捕捉範囲

■ 業種

(代表的な業種) 24 金属製品製造業

①金属製品製造業、②パルプ・紙・紙加工品製造業、③窯業・土石製品製造業

■ 加盟率

約90% (①85%(サッシ業界内)、②93%(繊維板パーティクルボード製造業界内)、③100%(窯業系サイディング、火山性ガラス、ロックウール保温材製造業界内))

■ 捕捉率

約86%(業界団体内の自主行動計画参加企業の出荷率)

○ 主な排出源

■ 塗装

・サッシの塗装工程、窯業外装材の塗装工程

■ 装着

・繊維板、パーティクルボードの製板工程、ロックウール保温材のフォーミング工程、ドア等のラッピング接着工程

■ 洗浄

・ウレタン注入機の洗浄

○ 除外・すそ切りの考え方

■ 対象企業

会員団体中、①VOCを排出していない、②他団体の自主行動計画に参加する、③自団体で実施するとした企業・団体を除く5団体を対象

■ 対象物質

PRTR対象物質のうち排出量の割合の上位を占める物質を対象団体各々が選定した

○ 排出状況

(単位:トン)

	【H12年度】	【H22年度】	【H29年度】	【H30年度】	【R1年度】	【R2年度】	【R3年度】	【R4年度】	【R5年度】	【R6年度】
■ 全国										
使用量 ^{※1}	10,109	3,876	1,734	1,526	1,310	1,029	1,142	1,108	961	912
排出量	8,031	2,208	1,174	993	916	657	691	650	590	544
(増減率 ^{※2})	-	(▲73%)	(▲85%)	(▲88%)	(▲89%)	(▲92%)	(▲91%)	(▲92%)	(▲93%)	(▲93%)
うち法規制対象施設	-	-	0	0	0	0	-	-	-	-
(増減率 ^{※2})	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
独自指標	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(増減率 ^{※2})	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加企業数	-	-	33	33	32	32	32	32	29	29
(参考)地域別排出量										
■ 対策地域計	3,682	1,586	449	424	436	357	428	376	366	352
(対全国比)	(46%)	(72%)	(38%)	(43%)	(48%)	(54%)	(62%)	(58%)	(62%)	(65%)
関東地域 ^{※3}	1,069	1,181	255	229	232	172	209	165	180	182
関西地域 ^{※4}	194	125	158	155	166	151	182	173	165	143
中部地域 ^{※5}	2,419	280	36	40	38	34	37	38	21	27

※1 使用量とは、燃料として使用したものを除く。

(当該年度の排出量-12年度の排出量)

※2 増減率(%) = $\frac{\text{当該年度の排出量} - \text{12年度の排出量}}{\text{12年度の排出量}}$

※3 関東地域: 東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県

※4 関西地域: 大阪府、兵庫県

※5 中部地域: 愛知県、三重県

(注) 物質別の排出量を推計している場合は、別紙に、物質別の排出量を記入してください。

■ 使用量の推計方法

VOC使用量は、各業界各社の購入実績や施設ごとの使用実績より算出した。

■ 排出量の推計方法

各業界毎に算出方法が異なるため、過去の自主行動計画報告書を参照してください。

■ 参加企業数の増減理由

○ 排出抑制に貢献する対策等

■ 対策及びその効果、コスト

(作業方法の改善等)

- ・生産計画の最適化や商品切替促進による対象物質の削減
- ・キャッチャー剤の導入、改良、及び使用方法の改良
- ・木質ボード用接着剤の改良や接着力向上による使用量削減

(原材料の転換・削減)

- ・溶剤系塗料から水系塗料への切替
- ・塗料、接着剤、シーリング材及び溶剤等について、対象物質を含まないもしくは含有率の低い材料への転換
- ・洗浄剤の代替促進と使用量削減
- ・ロックウール用ホルムアルデヒド含有フェノール樹脂についてノンホルムアルデヒドタイプへの切替

(設備導入・改良等)

- ・塗装方法の改善(塗装ライン設備更新)
- ・VOC除去装置の導入
- ・洗浄シンナー削減装置導入
- ・溶剤回収装置の導入と運用
- ・ホルムアルデヒド除去用脱臭装置の維持管理徹底

(取引先企業、消費者等への周知)

- ・厚生労働省が定める室内VOC濃度指針値のうちエチルベンゼンの数値が2025.1.17に改定されたため、既存登録品の移行対応に向けて準備を進めている。

(その他の対策)

- ・工業会で「環境宣言」を策定し、5年ごとに目標値を設定して、会員企業による環境自主管理活動を継続している(日本繊維板工業会)

■ 自己評価

(取組の目指すべき方向性)

- ・今まで取り組んできた内容を継続実施するほか、設備改善の際には、排出状況の改善にも資する様配慮するなど努力する。
- ・今後の目標値として、少なくとも平成22年度比で悪化しないよう、取り組んで行く。

(自己評価)

令和6年度の排出量(544トン)は、平成22年度排出量(2,208トン)に対して75%減となり、前年度からも微減となった。塗料の塗着、塗布効率の向上による塗料使用原単位の低減化や水性化設備改造による水系塗料への切り替え、塗装設備の塗装効率改善や設備の燃料転換、低VOC材料への代替化、建材のF☆☆☆☆生産比率向上、洗浄シンナー削減装置導入や洗浄回数削減などの効果により、一定の排出量抑制効果が得られたと考えている。

○ その他

(日本窯業外装材協会)

- ・排出抑制対策の継続については、溶剤塗料から水性塗料への切替により、使用量・排出量は年々小さくなってきており、引き続き設備工事に向けての計画検討を行っていく。

(日本サッシ協会)

- ・接着剤中のジクロロメタンは、代替化による削減を進めている。トルエン、キシレンおよびエチルベンゼンは、対象物質の含有率が低い化学物質への切替、表面処理工程での処理液の再利用及び歩留まり向上等による塗料由来成分の使用量削減、生産計画の最適化など歩留まり向上等の取り組みにより排出削減が進んでおり今年度も継続していく。

(日本繊維板工業会)

- ・「環境宣言」を策定し、5年ごとに各種環境目標値を設定して会員企業による環境自主管理活動を継続している。当工業会会員企業が製造販売する木質ボードは、F☆☆☆☆化が進んでおり、ホルム排出を下げる余地はわずかであるが、そのような中でも、会員各社はそれぞれの方策に沿って低ホルム化を行い、2024年のF☆☆☆☆生産比率は98.9%(前年97.9%)と僅かながらも進展が見られた。

(ロックウール工業会)

- ・ほぼ例年通りの排出量と判断する。ロックウール製品に使用しているホルムアルデヒド含有のフェノール樹脂をノンホルムアルデヒド樹脂に変更することを継続して検討していく。

※法的対象施設として該当するものがないため、記載なし。